



日本大学 生物資源科学部

College of Bioresource Sciences, Nihon University

日本大学の生物資源科学部は全11学科。農学系関連分野のほとんどすべてを網羅し、キャンパス内や近隣に充実した施設が整う。約6700人分の「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」が散らばる環境だからこそ学びがより深まり、自分の可能性も高まっていく。

約6700人の男女の割合は56%と44%



Interview

学部長 関 泰一郎

せき・たいいちろう / 2024年4月から現職。1986年日本大学大学院農学研究科博士前期課程修了。2011年から日本大学生物資源科学部教授。専門は栄養科学、生理学。



緑豊かなキャンパスは東京ドーム12個分の広さを誇る。

小田急江ノ島線の六会日大前駅からたった4分ほど歩くとたどりつく湘南キャンパスは、生物資源科学部専用のキャンパス。11学科がそろった学部では約6700人の学部生が学び、女子学生の割合も44%と比較的高いと言えます。東京ドーム12個分の広大で緑豊かなキャンパスは、単科大学を上回る規模であり、キャンパス内や近隣に動物病院、総合研究所、国際地域研究所、生命科学研究所、農場、演習林、食品加工実習所など、充実した施設が整っています。アクセスが良いうえ、キャンパスにこれだけの実習の場が集約された農学系学部は、首都圏では非常にめずらしいと言えます。座学で学んだ内容をすぐに研究所や実習所、あるいは農場や演習林で確認することで、理解は確実に深まっていきます。

当学部は「日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環

日本大学 生物資源科学部を構成する11の学科

- バイオサイエンス学科
- 動物学科
- 海洋生物学科
- 森林学科
- 環境学科
- アグリサイエンス学科
- 食品開発学科
- 食品ビジネス学科
- 国際共生学科
- 獣医保健看護学科
- 獣医学科

成を基本理念としています。広く言えば、国際社会の課題を解決するための学びを11学科全体で強力に進めています。2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の重要性が注目を集めています。当学部では1990年代から地球が抱えるさまざまな問題の解消を意識してきました。1907年に設立された東京獣医学校と1937年に設置された専門部拓殖科という二つの源流を持ち、長い歴史を刻んできたからこそ時代に先んじて地球規模の視点が持てたことは間違いありません。世界全体が達成を目指すSDGsを1年生から常に意識した視点は、就職活動

を含め、学生たちの将来に活かされていると考えています。海外での研修の機会が豊富な点も大きな特徴。日本大学には全学共通初年次教育科目として「自主創造の基礎」という授業が用意されています。大学で学ぶことの意義を理解したり、高校までの受動的な学びから能動的な学びへの転換を図ったりしながら、専門教育の土台となる基礎的な能力と学修に対する姿勢を育むのがねらいで、この学びの時間は本学の教育理念である「自主創造」に基づいています。

生物資源科学部も「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」という「自主創造」の3要素で培われる能力の獲得をさまざまな講義、実験・実習、演習の具体的な到達目標に設定しています。その点、全11学科、約6700人分の「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」が散らばるこのキャンパスの環境は大変刺激的です。たとえば学科の垣根を超えた友人や先輩後輩と話すなかでその主体性に触発されたり、自分とは異なる考え方に示唆を受けたりする時間を通し、自分の可能性を高めることができます。

自らの可能性を増やすという面では、海外研修の機会が豊富な点も大きな特徴です。日本大学では、イギリスのケンブリッジ大学と、日本大学ニールカッスルキャンパスでの短期海外研修を実施しています。さらに生物資源科学部による独自の海外研修も行っており、全学科・全学年を対象とした、海外研修旅行を実施しています。正課授業の一環として、韓国、台湾やタイ、タンザニアなどの学外研修や実習、獣医学科のアメリカでの「夏期獣医臨床研修」、海外からの交換留学生の受け入れなどを行い、世界を舞台に農学の知見を広げていきます。

PICK-UP



生物資源科学部 就職指導委員長

小谷 幸司 教授

いは面接やグループディスカッションの対策などを行います。日大就活ゼミ以外にもさまざまな行事を展開しており、2024年9月には、

湘南キャンパスに設けた生物資源科学部専用の就職支援センターには経験豊富な専門キャリアカウンセラーが常駐しており、就職活動に関する相談のほか、模擬面接指導、エントリーシートや履歴書の添削などを丁寧に行っています。

生物資源科学部として特徴的な取り組みは、主に学部3年生を対象とした「日大就活ゼミ」です。早期選考での内定獲得や大手企業への就職を希望する意欲的な学生30人程度の少人数制の講座。1コマ90分のゼミでは、自己分析やエントリーシート対策、ある

CAREER SUPPORT

就職支援センターを設置し、「合同企業セミナー」など学部独自の支援行事を開催



毎年11月に開催する大型の合同企業セミナーとは別に、早期選考への対応を狙いとした合同企業セミナーを2日間に渡って開催しました。このセミナーでは、当学部の学生の多くが就職を希望する企業数社を招聘するなど、学生ニーズにも対応した行事となるよう工夫しました。

25年度はすでに「業界ガイダンス」業界・企業研究」や「インターンシップ参加前のビジネスマナー講座&実践編」などを実施。さらには、「小田急線沿線の企業」や「水産関連の企業」、または「在宅勤務可能な企業」など、テーマを絞った合同企業セミナーも行っていく予定です。加えて、農学系に限らず、学生からの人気が高い企業を積極的にのお招きしたいと考えています。

日本大学全体としては公務員試験対策講座にも力を入れており、生物資源科学部から農林水産省や厚生労働省、環境省や財務省などに入省した卒業生もいます。

マレーシアのサバ州で海外研修旅行を実施



生物資源科学部では2025年3月に、マレーシアのサバ州において10泊11日の海外研修旅行を実施した。学生19名と引率教職員3名の計22名が参加し、農学や林学分野で国際的に評価の高い国立サバ大学を訪問した。同大学では、ナマズの一種であるアフリカンキャットフィッシュの孵化場を含む研究施設を見学し、現地の大学生との交流も行った。さらに、世界遺産に登録されているキナバル自然公園や、希少動物の保護施設を兼ねた動物園であるロッカウイワイルドライフパークを訪問し、研究員による講義に熱心に耳を傾けた。異文化とのふれあいや現地での学びを通じて得られた視野の広がりや実践的な経験は、将来の進路選択における強みとなる。

TOPICS 01

骨の博物館



「骨の多様性と進化」をテーマに、さまざまな脊椎動物の骨格標本をはじめ、学部に関連する資料を展示収蔵しており、学生教育の場や学内研究の発表の場においても活用されています。2025年3月に神奈川県内の大学博物館として初の「登録博物館」となり、一般の方も見学できます。

TOPICS 02

動物病院



先端的な獣医療サービスを提供する大学付属動物病院です。文部科学省の大学設置基準に基づいた獣医学部大学の教育研究機関でもあり、将来を担う獣医師と愛玩動物看護士の養成において獣医学の発展にも寄与しています。北米大陸以外では、大学付属動物病院として初の米国動物病院協会の国際認証を受けています。

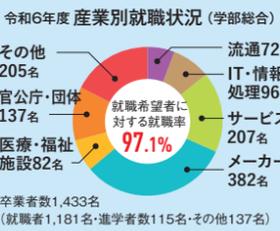
TOPICS 03

スマートアグリ温室



野菜や花などの育成を目的とした実習や研究に使用される施設です。先進的な養液栽培システムが導入されているほか、環境条件を研究室から遠隔操作できる、未来型の設備となっています。キャンパス内に設置されているため、講義や演習で学んだ内容をすぐに確認することが出来ます。

生物資源科学部でも公務員講座を開催



2025年3月に生物資源科学部を卒業した学生のうち、最も多く就職した業界はメーカーであり、全体の32.4%を占めている。3番目に多かった就職先は官公庁・団体であり、全体の11.6%を占めたことから、公務員人気の高さがうかがえる。日本大学では全学的に公務員講座に力を入れているが、今年度からは生物資源科学部においては公務員志望の学生が定期的集まるサロンのような「日大公務員ゼミ」を開催する。この講座では、公務員を目指す学生が互いに意見を交換し、先輩公務員から直接アドバイスを受けることができる場となる。日本大学は全国40の自治体と就職支援協定を締結しており、学生の多様なニーズに応える体制が整っている点も大きな強みである。

